

# 専念寺通信

三月号 (NO. 79)

ことしの冬は、それほど厳しい寒さに見舞われず、小春日和の日が続いています。ますます進む地球の温暖化。暖かくて助かる気持ちもいたしますが、みなさま、いかがお過ごしですか？『通信』3月号をお届けします。

## ☆春のお彼岸

3月18日から24日までの一週間は春のお彼岸です。彼岸会について、今までに何度か、この『通信』でお知らせして来ましたが、「彼岸」は極楽浄土を意味する言葉で、「到彼岸」はサンスクリット語で**パーラミター**の意味を訳した言い回しです。そして、彼岸のお中日、太陽は真東からのぼり、真西にしずむことから西方十萬億浄土にある極楽浄土を思い描き、安楽国への往生を祈願するようになったのです。また、春の彼岸は、お中日（春分の日）を境にして、夜より昼の時間が長くなり、季節の変わっていく時期にあたり、秋の彼岸は同じようにお中日（秋分の日）を境にしてこちらは夜の時間が昼より長くなって行く、冬へと向かっていく時期に当たります。この季節の仏教行事のなりたちには、日本の農耕文化と密接な関係があったようです。

## ☆六波羅蜜（ろっぱらみつ・ろくはらみつ）

「到彼岸」を意味する**パーラミター**はそのまま音訳されて「**波羅蜜**」という語になりました。意味は、彼岸に到ること、完成すること、理想を達成すること、です。お彼岸の時期はこの六波羅蜜と呼ばれる徳目を思い起こし、みずからの生きる姿勢をととのえる、といういわば仏道の実践機関としてとらえることができます。

六波羅蜜とは、次の六つの徳目です。

- 1) **布施**：ふせ：与えること。財施（ものを施す）・法施（真理を施す）  
無畏施（恐怖をとりのぞき安心を施す）の三種の布施。
- 2) **持戒**：じかい：戒律を守ること。
- 3) **忍辱**：にんにく：苦難に耐え忍ぶこと。
- 4) **精進**：しょうじん：真実の道をたゆまず実践すること。
- 5) **禅定**：ぜんじょう：精神を統一して安定させること。
- 6) **智慧**：ちえ：真実の智慧を得ること。

日々の暮らしのなかで、これらの徳目を実行することは、とても難しい気がします。このうちのひとつでも、お彼岸の期間中に実践しようところにかけてみませんか？800年前には、六波羅蜜以外にも無数の厳しい戒律が存在しましたが、法然上人は『選択集』の中で、「戒律を守れないとしても、弱い自分をみとめ、力の至らない愚かな自分を謙虚にみとめ、仏の慈悲を信じて生きよ。」と語っています。あきらめでなく、自分が無力かもしれないと思ってみること、そこから出発することは、むしろ大きな目で見ると、難問を突破する底力になるかもしれません。謙虚と卑屈は違います。自信と傲慢が違うように。日々を、こつこつと丁寧に生きていきたいものです。

## ☆小さなお知らせ：

墓地を少し整備致しましたところ、数か所空きができました。檀家さまのご親戚の皆様を優先したく、ご案内申し上げます。どうぞ直接お越しになるかお電話でお問い合わせ下さい。季節のかわりめ皆様お健やかに過ごしてください。平成19年3月1日 大黒

